

# プロジェクトマネジメントをより円滑に行う方法



ソフトウェアビジネスでは主にWBS（作業分解図）を利用してスケジュール管理を行ってきました。

しかしながら、作業者とWBSとプロジェクトリーダーのつながりでしかなく、WBSに記入して報告終了！  
リーダーがいちいち動いて確認しないと正確な状況がわからないなど・・・  
直接的なコミュニケーションが不足がちではと気づきます。

そこで、定時に本日の作業状況と残作業の内容をプロジェクトリーダーに報告して、プロジェクトリーダーはマネージャーに進捗状況を報告する活動を始めました。  
一見当たり前ですが、メンバが自ら動き、リーダーは少ない決まった時間で正確な情報を取りまとめ結果的にリーダーもメンバも負担が少なくて済むコミュニケーションとなりました。



進捗！進捗！

よし！



作業者の状況がより明白になったことで、報告へのフィードバックがしやすくなって、顔を合わせてやり取りする様も見られるようになりました。



進捗よし。残作業は...

いつやるの？やりたいの？やりたくないの？



こういったひとつひとつの活動が、組織のコミュニケーション力となって、プロジェクトマネジメントをより円滑に行うことができます。



\*行きますか\*

